



たくさん遊んで、たくさんお話ししましょう

こんにちは、地域医療・健康課の心理士です。『ことばの育ち』のお話です。ことばについて、「なかなか出ない」、「いつまでも赤ちゃんことば」、「うまく言えない音がある」など気がかりなことはありませんか。ことばは子どもの発達の指標の一つで、コミュニケーションの道具です。以下の方法をヒントに、子どもと楽しく関わりながらことばの発達を促していきましょう。

コミュニケーションの基礎を築きましょう

赤ちゃんは話しかけに適切に答えることはできませんが、全身で情報をキャッチしています。優しく、たくさん話しかけて“言葉のシャワー”を注いであげましょう。

赤ちゃんは、意味のあることばにはなっていないけれども、何かしゃべっていることがありますね。そんな音声を喃語(なんご)と言います。喃語には、「そうなの」、「～だね」、と応答してあげましょう。

そうすることで赤ちゃんは、自分の発信が伝わる楽しさ、大切な人に共感してもらううれしさを経験します。



伝わる楽しさを教えましょう

たくさん共感してもらうと、子どもは自分から何かを伝えることがいいことだと思うようになります。喃語の次には、指さしなどで自分の要求や、感動を伝えるようになります。何かを伝えたい素振りが見えた時には、「お茶飲みたいの?」、「くまさんかわいいね」と、子どもの言いたいことをことばにして返してあげましょう。子どもは伝わったうれしさと一緒に、ことばを覚えていきます。



心と体を育てましょう

子どものことばは、体の発達、社会性の発達と比例して育ちます。口やのどの動きが育ってくると、言葉がはっきりしてきます。口やのどの機能は、身体全体の発達とつながっています。手先や体を使って子どもと楽しく遊び、よく動く体を作りましょう。

最初は音遊びだった発声も、反応が返ってくることで伝える道具になっていきます。同時に、相手のことばを理解しようとするようになっていきます。ことばを使うやり取りをたくさん経験させてあげましょう。



子育て世代包括支援センターでは、臨床心理士や言語聴覚士によることばの相談を行っています。お気軽に下記までご連絡下さい。